荒神の弓取［銀魂］

昴星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
荒神の弓取［銀魂］

【Ｎコード】
Ｎ５２７３Ｄ

【作者名】
昴星

【あらすじ】
攘夷戦争中の一コマ。”白夜叉”こと坂田銀時と、通称”荒神の弓取”である『家成』の絡み。

うろこ雲が色付く夕焼け時、血だらけの白髪男が巨木の幹に座り込んだ。少し離れた地面には、すでにあの世へ旅立ってしまったであろう細胞の固まりが無造作に転がっている。辺り一帯に鉄の様な臭いが漂っている為なのか、易々と生きている己に対してなのか、どう表現すれば良いのか分からないような吐気が込み上がってくる。誰とも区別がつかないそれを見ることに嫌気が差した銀時は、視線の逃げ場を探し目を背けた。

暫くの間、何をするでもなく地面から盛り上がった巨大な根に背中を預けていた。形を変えずに通りすぎて行く雲を大空に仰ぎ見ながら、懐にしまっておいた竹筒を取り出す。

「家成ぃー、居んだろ？　どーせ使わねぇんだから俺にくれって」

未だに遠くを見つめながら巨木の周囲に聴こえるほどの声を出す。その声に反応して、真上から同じような竹筒が降ってきた。

「ちょいー！　割れたらどうするよ！　マジで！！」
「わざわざくれてやってんだから文句たれるな」
「それが、働き疲れた旦那に対する労いの言葉かね。世の中は変わったなぁ、オイ」

降ってきたそれを左手に持ち直しながら、銀時は妙に真剣な面持ちで嘆く。

「嫁じゃない……。それ以前にお前とは友人でもない」
「何だよ、その冷静な切り返しは。もっと気分だけでも盛り上がる

ように出来ねぇのか？」
「男二人で盛り上がって何になる。それはそれでキモイぞ」
「お前それ、自分の見たもんしか信じないって言ってるようなもんだぞ。世界に目を向けて見ろって。そーゆー関係もあるじゃないの。俺んとこ来い」
「誰がお前に嫁ぐか！　生まれ変わったって御免だ！！」

ケラケラと声を殺して笑う銀時は、冗談だって、と真上の太い枝がある方向へ声を掛ける。そして持っていた竹筒の栓を抜き、中の水で手を清め始めた。

「誰も居ないのか？　銀以外に」
「オメェはずっとここに居たんだから分かんだろーが」
「そんな言い方ないだろ。俺だって、一応、戦ってたんだ」
「そーかい。……っにしても、お前ェは良いよなぁ。一滴も浴びねぇんだからよ、血」
「俺にしたら刀の方が良いように思えるけど……」

急に弱々しくなった家成に、銀時は無駄に声を張ってみる。

「家成が刀握ってる姿なんて想像つかねぇーわ。どうせ持つだけで精一杯なんじゃね？」
「煩い……お前、弓は引けても、絶対、標的（まと）には中たらん」
「オイオイ、馬鹿にすんなよ。弓矢なんてパチンコみたいなもんだろ。俺にかかりゃあ、ちゃちょいのちょ……」
「それに、実用的じゃない……」
「え？　スルー？　え、ちょっと、何モード？　コレ」
「一人だけ隠れたまま。見付かったら死ぬな、俺」
「……。でも、前戦から外される代わりに、全体的な状況を把握出来る。弓取の特権だと思うけどな」

「……俺には傍観がお似合いって訳かい」

どこか諦めたように呟いた家成の声を聞きながら、銀時は視線を落とす。

「知ってっと思うけど……東部隊全滅……」

「――そう、」

力の入っていない家成の返答に己の無力さを改めて感じた。と、同時に悔しさが膨らんできた。手だけが綺麗になった銀時はなんとも虚しい気持ちになりながらも、二つ目を使う。二人共が同時に溜め息をついた。瞬間、どうゆう訳か風がぴたりと止んだ。

「銀、伏せろ！　早やく！！」

銀時はやっと異変を理解し、急いで根の陰に潜り込んだ。

「オメーも来い！！」

そう言うやいなや、景色全体が強い光におおい尽された。銀時はたまらず両手で目を守る。そして、狭い根の隙間の中で身を回転させ、地面に突伏する。

光がおさまったと思ったら、次は低く唸るような轟音だった。僅かな隙間に入り、更に強くなった突風が、銀時に向かって押し寄せる。

「うぁっ……！」

――全てが収まり、やっとのことで穴から這い出た銀時は、あれだけあった死体の山と共に消えた家成を、頭に思い描くことしかでき

なかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5273d/

荒神の弓取［銀魂］

2010年10月11日00時17分発行